

5. 農家家計における現物家計仕向について

岡山大教育 深田 貞子

1. 家計を代表するものに都市勤労者世帯と農家世帯とがある。農家における家計の構造は現金支出、現物取引および現物家計仕向からなり、都市勤労者世帯の場合と異なった形態をなしている。そして現物家計仕向の占める割合はそれぞれの経営によって異なるとともに、農産物の種類によっても異なる。したがって現物家計仕向としていかなる農作物が組み合わされているかを知ろうとした。

2. 農林省岡山統計調査事務所の農家経済調査資料およびアジア財団の農業機械化研究対象部落の経済資料に基いて昭和32年、33年の現物家計仕向について分析する。

3. 現物家計仕向の殆どは飲食費を構成しており、商品経済の農村への浸透は家計仕向が飲食費の大きな割合を占めていることによって分るように、現金支出としてのその節減部分が他の生活費に影響をあたえている。また家族の摂取する食糧の構成は農業経営の状態すなわち農産物の種類や土地の制約をうけている。この家計と農業との経済的結合が都市と農村の食糧構成の差を作るものと思われる。